

第1回村民意見交換会概要報告（父島）

第1回目は、世界遺産に登録され1年経過後の村内の変化と今後の取組について、村民の方からご発言をいただき、その場で説明できることについては情報共有させていただきながら取りまとめを行いました。今回は課題解決の方策を検討するまでには至っておりませんが、村民の皆様からの意見を島内関係機関と調整を取りながら、今後開催する村民意見交換会で報告するとともに議論を深めていきたいと考えております。第1回父島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。

1. トイレについて

主な意見

- ・観光客が増加したが増加した年齢層は高齢者が多い。
- ・清掃を考えると和式より洋式へ早急に改修。
- ・観光船の需要形態に沿ったあり方の検討。
- ・特に青灯台のトイレを事例に課題が多く出た。
- ・他地域（平泉・白神）と比較しても貧弱。
- ・山域のトイレについても意見が出た。

今回の取りまとめ

- ・公衆トイレについては、支庁と村が管理する公共施設でもあり、設置主体間で協議したうえで、次回等で報告することとした。
- ・山域について、夜明道路沿いには、今年度中のバイオトイレの自衛隊夜明山送信所建物隣接地の設置と今後VERA内へのしっかりとしたトイレ建設を話題提供した。また、歩道上ツアー中の扱いは、携帯トイレ等の導入検討を示唆した。

2 ごみについて

主な意見

- ・観光客のごみの処理に問題があるのでは。・街中にゴミの捨て場がない。
- ・船客待合所のまわりのごみ箱はいつも満杯になっている。
- ・観光客が増えて、非常識なポイ捨ても多くなっている。
- ・観光客に限らず村民の一部にもポイ捨てが見られる。
- ・青灯台のポイ捨てがいつも同じ銘柄。
- ・空缶も落ちているこれは観光客というより村民のごみに思える。
- ・青灯台の釣りのゴミも多く見られる。
- ・山に関してはガイドの努力で落ちていることはない。
- ・タバコの喫煙に関しては、海岸や子供の多い公園等での禁煙は必要

今回の取りまとめ

- ・建設水道課担当者よりごみ減量化、収集ごみの扱い、ごみかご撤去の考え方等について情報提供。
- ・観光客の一部及び村民の一部にごみ（吸殻含む）のポイ捨てが見られ、街中は全体的に目立っている。山域はそれほどでもない。
- ・この場では、ポイ捨てゴミ対策を検討することとし、是非次回良いアイデア（解決策）があれば提供をお願いしたい。

3. 観光利用のあり方

主な意見

- ・登録後、ルートによって混雑感を感じることもある。
- ・東平のルートは平坦地が多く、高齢者向きという面で利用頻度が高いが、雨天でも多く利用しルートの一部が荒れている。別の場所（大神山公園内ルートを提案していた）も活用すべき。
- ・利用集中から路面の荒れや自然破壊等の影響がないとは言えない。
- ・観光客の多様性に対応できる体制づくりが必要。
- ・一部のガイドの質が低い。ガイドのランク付け等の考え方も必要なのではないか。

今回の取りまとめ

- ・南島の利用対策と同じようなものが必要になるかもしれない。
- ・特定の場所（南島やハートロックなど）を宣伝することにより、利用集中の問題が発生する面がある中で戦略的に分散させることも考えていくことが必要、一方で管理して集中的な利用を図るということもある。
- ・次回への課題とした。

4. 今後の観光動向

主な意見

- ・小笠原の遺産効果が将来的にどうなるのか、いろいろな対策もそれによって違ってくる。
- ・旅行会社ツアーが非常に増えたが、ここにきてキャンセルもあるという。
- ・去年来られなかった方がこれから増えてくることも考えられるか。
- ・たとえば、ボランティアツアーで参加できなかった方が再チャレンジで来る方もいる。
- ・旅行会社のツアー企画で催行ができなくなっている状況も出てきた。
- ・次（世界自然遺産登録）は沖縄が候補地であり、小笠原の魅力と重複する面がある中で将来的な落ち込みは想定できる。
- ・登録後1年間を振り返ってみると、小笠原はマスツーリズムに翻弄された1年だった。お客様の量や質の変化だけでなく、旅行会社のパンフレットだけ見て来る観光客等、今までの客層とは違っている。それを考えると今後の対応としては旅行会社への対応とマーケティング調査が必要になってくる。
- ・今後、この効果が失われ客数の落ち込みが予想される中で事前の観光戦略を作る必要がある。
- ・メディアの露出度のデータがないが、最近メディアにも取り扱われなくなった、メディアに取り上げてもらう対策も必要。

今回の取りまとめ

- ・課題出しで終了（観光動向を見極めることは重要。資料収集をし、的確な情報を次回以降も提供する。）

5. 世界自然遺産地小笠原の売り方

主な意見

- ・小笠原の魅力を再確認する。例えば沖縄との比較でいうと船を下りた段階から、固有の自然があり、その自然の中で生活している小笠原を売りにできるのでは。
- ・遺産以外の村民が感じている魅力を発信すれば観光にもつながるのではないか。
- ・観光客が求めるものは島にしかないものを求めるが、特産品がないのが弱み、地産地消の体制を作ることが必要。
- ・屋久島では象徴的な千年杉だけを売るのでなく地元の魅力を探して売りにしている。小笠原も南島だけでなくその他の魅力を探す努力をすべき。
- ・観光に直接携わっていない一般村民も含めて、小笠原の将来のために一緒に考えていくためには、どの様に進めたらいいのか。

今回の取りまとめ

- ・課題出しで終了（観光動向を見極めることは重要。資料収集をし、的確な情報を次回以降も提供する。）

6. 世界自然遺産・観光客増を村民生活にどう取り込むか

主な意見

- ・小笠原が好きでこの自然を満喫している村民の考え方の中に遺産という価値観があるという状況を提供する。
- ・漁協・農協の生産高データはあるが、島内消費のデータはないか。
- ・島特産品が島民の手に入らない状況が出ている。
- ・世界遺産の自然保護のために、いろんな事業をやっているこの成果をフィールドで村民に見せ説明することにより、改めて小笠原の価値を認識できるのではないか。
- ・高校生の兄島キャンプが今はボランティア活動中心で良い印象がない。兄島の自然の何が素晴らしいかを教えるような次世代教育が将来の小笠原を背負っていく若者に必要。
- ・小学校の授業の中で島の子供たちに小笠原の自然を理解できるような機会をもたせたい。
- ・子供たちだけでなく村民への専門家によるフィールドでの説明会等の機会も設定すれば意識が高まるのではないか。
- ・一般村民が指定ルートなど以外の遺産区域に入れない不満がある。一般村民に対してなぜこの自然を守らなくてはならないかと理解させるような事業が必要

今回の取りまとめ

- ・課題出しで終了（村民は自分らの島を守るために、何をしなければならないか、何ができるかを考える時期である。）

7. 遺産価値の保全（グループ分けで環境省担当より説明）

主な意見

- 何を保全するために、取り組みを進めているのか、住民からはわかりにくい（保全の対象が、住んでいても実感がわからない）。
- 昔と今と、比べると、風景が大きく違う。昔の風景を取り戻してほしい。
- 外来種も命ある生き物である。外来種＝悪という伝え方ではなく（子供たちの前でグリーンアノールを捕まえて、殺す、）外来種のことを正しく伝えてほしい。
- 駆除した外来種を利用する発想を持てば、産業の振興にもつながるのではないか。
- 地域連絡会議のPRをもっとしっかりやるべき。
- 島に古くから住む人や、子供など、いろいろな人の声を聞く場を設けてほしい。
- ネコとハトの関係や、ネコとネズミの関係など、正しいことを教えてほしい。
- ネズミやグリーンアノールの対策をしているのはわかるが、何をやっているか、どういう状況になったのかを示してほしい。
- 村民意見交換会のグルーピングについて、両方にまたがる話題もあるし、両方に出たい気持ちもあるので、1つにしてほしい。
- 本当に島全体の意見を聞くつもりがあるのなら、意見交換会は、時間帯、日時の設定や、PRをもっとしっかりすべき。また、いまの設定は、高い目線から投げかけられている印象があるので、目線を合わせることも必要ではないか。
- 例えば、青灯台のトイレなど、できない部署があるのなら、他部署が協力するようにして、縦割りの解消と、横の連携に努めてほしい。島民のニーズは、どこにやってもらいたいかは関係なく、どうしてほしいかである。
- 自然を守る取り組みは、地域を巻き込んでいくことが大切である。NPO 主体のボランティアではなく、ボランティア協議会のようなものを作って、本当の意味でのボランティア活動が必要ではないか。

今回の取りまとめ

- 課題出しで終了（世界自然遺産の価値を維持していくためには、外来種対策等の情報を共有して、村民と行政が一体となった取り組みが必要）

第1回村民意見交換会概要報告（母島）

父島に引き続き母島で開催した村民意見交換会について、第2回村民意見交換会を開催する前に概要を報告いたします。

母島は分科会を設けずに自由に発言いただきました。また、テーマごとに「主な意見」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。

1. 船舶関連について

【主な意見】

- おがさわら丸のファミリールームがなくなるなど村民向けのサービスが低下した。
- おがさわら丸の2等がとても狭くなった。村民や子供が不便に感じている。
- ツアー会社による切符の買い占めのせいか島民が購入できない。
- ははしま丸の天候による運休は減らせないのか。例えば東港の復活など。
- ははしま丸の入港翌日の日帰り便を作ってくれないか。
- ははしま丸の日帰り便を増やして欲しい。利用のバリエーションが増える。

今回の取りまとめ

- 2等の定員削減についての取り組みを説明
- 登録前後の変化として幼児の席の確保や今までの島民向けサービスの低下がみられているが、旅行業者の買い占め等で乗船券を村民が購入できない状況については役場として最優先で対応しているため、乗れない等の現象は出ないようにしているため、何かあった場合は村に相談してほしい。
- 母島の日帰り便の件については、ツアーデスクやナショナルランド等の話し合いで調整をとった結果、現在は改善されている。
- ははしま丸の入港翌日の日帰り便の運航についても、現在のははしま丸が赤字路線ということもあり、運行会社との調整事項として村も努力していく。
- おがさわら丸の3泊便と4泊便は、着発便で東京泊を1日多くすることにより小笠原着日を毎週同一日とする案で、3月に試行的に運航する。
- 天候によるははしま丸の運休を防ぐ意味で、東港の運用をこれから先、検討し直すような考え方を村民はどう思っているか聞きたいという意見がでたが、これについては過去からの経緯もあり東京都との調整事項ということで話を打ち切った。

2. 生活関連について

【主な意見】

- ごみ・タバコのポイ捨てやごみの海上投棄などを条例で罰則化できないか。
- 海岸の漂着ごみについて対策が必要。
- 自然を売りにしているにもかかわらず、漂着ごみが各海岸に放置してある。
- 遊歩道（南崎・乳房山）に排泄物のごみがみられる。
- 公園に雑草が繁茂していたりして観光地として恥ずかしく思う。
- マナーやモラルの低い観光客が増加し、地域住民との摩擦が生じている。

今回の取りまとめ

- 遊歩道の観光客による糞便やポイ捨てごみがみられる。
- 母島は父島よりトイレの数が少ないせいか排泄物が多いと思われる。エコツアー協議会ガイド部会の中で緊急用ボックスの中に携帯トイレの設置を検討している。

3. 観光利用のあり方

【主な意見】

- 内地のツアーコンダクターに正しい知識を覚えさせてほしい。
- 父島の満足度調査の低下傾向は致命的。小笠原全体が悪い印象になる。
- 観光については、賛否両論あるが小中学校の水槽に紹介パネルがおかれたことは、感心している。
- うわべだけの観光ではなく母島の自然をもっと深く知ったり体験できるツアーをたくさんつくっていきたい。
- 母島のエコツアー、ボランティアツアーも形作っていきたい。
- 漁業・農業の生産額ではなく観光客増加による地産地消がどのくらい増えたのか知りたい。
- 生態系に価値があるのに、日帰りの観光形態ではそれらの魅力がほとんど伝えられていないのではないか。
- メグロやアカガシラカラスバトを観光客にどうみせていくか。
- 以前は母島に来る観光客は謙虚だったが最近はそのような客が増えた。

今回の取りまとめ

- 母島独自の問題として観光客が道路の真ん中を歩いたり、庭の柑橘類を見るため敷地内にはいたりとは不快に感じている村民がいる。
- 観光客の受け入れについて、こうあるべきだという姿がありますか。
- 小学校の入り口にある水槽を卒業記念として整備したら、観光客も興味を持って観察していた。このような取り組みが必要なのでは。
- 以前の観光客は謙虚さがあつたが、登録後に来る観光客はモラルがなく態度が悪い人が多く感じる。遺産登録そのものが村民側から盛り上がったわけではなく、いつの間にか上から降りてきて登録された感があり、その段階での調整がとられていなかったことが現在の問題点なのでは。
- ツアーコンダクターが小笠原の自然と魅力を正確に説明できるような体制が必要。
- 旅行会社のツアーとの調整がなされていなかったのではないかと。ガイドさんとの連携もとられていないので、観光客の行動も悪くなっているのでは。
- 世界遺産の島なのでごみ問題やタバコのポイ捨てなどについて、条例上の規制を設けることはできないか。条例規制はできないことはないが、その前に村民全体でいろいろ考えて結果として条例での規制という結論になれば一番いいのではないかと。今後の課題として取り組んでいく。

4. 自然保護について

【主な意見】

- 外来種対策を広げる前にここで一度立ち止まって見直すべきでは。住民が知らないうちに進みすぎている。もっと一緒にテーブルで話して決めてほしい。青写真を作ってからの説明会ではなく住民を入れた検討会を開いてほしい。
- 野ネコ対策が功をなしアカガシラカラスバトが増加したことは喜ばしいが、母島の野ネコはいつまでもなくならない。住民が飼育するにあたり問題点を見直すことが大切なのではないか。
- 生態系の保護と産業振興、特に農業生産との兼ね合いの整理が必要（自然生態系を生かした技術の確立）
- アカギ対策でラウンドアップを使っているが、最初の説明では全くほかに影響がないという説明であったが、本当にそうなのか明確な根拠を説明して欲しい。
- アカギ対策でのシロアリの処理をどうするか説明して欲しい。
- アカギを枯らした後イメージ通りの森になっているのか。枯れた木はどうするのか。モニタリングはどのようにしているのか。世界的に前例があるのか。事業評価はどのようにしているのか。林床に増えた雑草対策は。

今回の取りまとめ

- 小笠原の自然の価値を共有して将来に残していく方法を、村民と行政と一緒に考えていけるようなしくみづくりが必要。
- 環境省では、ラウンドアップの使用については、木に薬注する際に外に出ているか周辺調査をやっている。その際に周辺への影響をモニタリングしているが、外に漏れている状況はない。
- アカギ駆除後の植生回復は、長い目で見ることが必要。場所ごとに状況が違うので、手の入れ方を変えていく必要がある。
- 林野庁では、石門地区等の重要地域について植生上の配慮をしながら駆除を進めている。乳房ダム上流部分の水源地に近いアカギ駆除事業については、住民説明会を開催する予定。
- 駆除木の有効活用、シロアリのモニタリング等を行っている。なお、シロアリ対策については、行政による別の話し合いの場があるので、この場で詳細な議論はできないが、機関で連携した取り組みが重要。

5. その他意見

【主な意見】

- 今回の意見交換会について、企画的にとても良いと思うが、一般島民の参加が少ないのが残念。（村民に毎回報告する手段を考えてほしい）
- 説明会に来れなかった人への周知する仕組みが必要（特にシロアリなど）
- 一般の人特に主婦などが来れるような設定にして欲しい。
- 意見交換会も自然関係者が多く、一般島民が少なかった。遺産が島民とかい離している現実を受け止めてほしい。

第2回村民意見交換会概要報告（父島）

父島では第1回目の意見概要について報告した後、参加者の皆様と意見交換を行い、その場で説明できることについては情報共有させていただきながら取りまとめを行いました。今回は課題解決の方策を検討するまでには至っておりませんが、村民の皆様からの意見を島内関係機関と調整を取りながら、今後開催する村民意見交換会で報告するとともに議論を深めていきたいと考えております。

第2回父島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。

1. 小笠原村陸域ガイド登録制度について

【主な意見】

- 小笠原村陸域ガイド登録制度は、要綱や審査方法等に課題がある。
- ガイドも救助等に係るようにしてほしい。

今回の取りまとめ

- エコツーリズム協議会のルール・ガイド制度部会で制度上の検討をするが、陸域ガイドとの話し合いの場も設けていきたい。

2. 農業について

【主な意見】

- 地産地消のニーズは以前にも増して高まってきている。
- 父島でも農地を借りられるようにしてほしい。
- 小笠原は農地法が適応されていないため、農地が転用されやすくなっている。農地法を適応するための取り組みを進めてほしい。
- 農業者の意見を吸い上げてほしい。

今回の取りまとめ

- 行政間の農業振興プロジェクトの設置など、関係機関で協力して農業振興に取り組んでいくことを報告した。
- 農地法が適用外となっている経緯を説明し、農地法の適用については国で議論されるものであるが、先送りになっていることを報告した。

3 外来種対策について

【主な意見】

- 固有種だけが重視される固有種原理主義的な取り組みになっている。広域分布種も重要だ。
- 外来生物法ができた時期と世界遺産登録の予算がついた時期が近かったので、世界遺産登録をするために急に外来種対策を始めたのだと村民は誤解している。誤解を招かないようにしっかりと説明したほうがよいのではないか。
- 硫黄島にニューギニアヤリガタリクウズムシが確認されたと聞いた。また、建設重機に土が付いたままの状態でも島に運んでいることがある。母島など大切な地域に外来生物を持ち込ませない取組をしっかりとすべきではないか。
- クリノイガ（外来植物）がとびうお栈橋に隣接した国有林地で増えている。普通の草刈りをしたのでは、種をまいているようなもの。対応を考える必要があるのではないか。
- 行政は制度を整えようとするが、島民は対策の方法が知りたいのではないか。具体的な方法を教えてもらえれば自主的に手間のかからない程度で協力してくれる人はいるのではないか。

今回の取りまとめ

- 小笠原の自然の何を、どのように守っていて、現在どうなっているのかは、最新情報を報告できるように工夫したい。
- 公共事業における土壌の運搬防止対策については、「小笠原諸島の公共事業における環境配慮指針」2-5（工事資材等の確認）において、「監督員及び請負者は、島外からの材料搬入又は工事資材の移動に際して、移入種の侵入及び移動拡散を防ぐために、使用材料、資材の点検を徹底する。」こととなっている。事業者環境配慮指針の遵守を呼びかけたい。
- 新たに生じている外来種拡散のリスクへの対応については、これまでの取組を見直すために、科学委員会の下部組織のワーキンググループでも議論しているところ。生活、産業に関わる外来生物対策は、地域に暮らす方とも一緒に考えていかなければならない。
- とびうお栈橋は属島へ行く船が出る場所でもあるので、管理方法について担当課に話しておくこととした。また、ボランティアで取り組めるようなメニューも考えていきたい。

4 航空路について

【主な意見】

- 航空路はどうなっているのか。世界遺産と航空路は共存できるのか。

今回の取りまとめ

- 航空路建設は東京都が検討を行っているが、村は共存できる航空路は可能と考えている。国としては、手続き上具体的な話ができる段階にはないことを報告した。

5. 様々な会議の公開について

【主な意見】

- 議論の結果だけを知らされても、どういう経緯があって、なぜそうなったのかがわからない。できれば村民も含めて議論してほしい。
- 行政が議論する会議を村民が傍聴できるようにすれば、少しはギャップが埋まるのではないか。
- 村のケーブルテレビで生中継できるようになったので、会議をテレビで見られるようにしてはどうか。

今回の取りまとめ

- 地域連絡会議や森林生態系保全管理委員会など、最近は基本的に公開されている。
- 会議開催の広報が課題。

6. 広報について

【主な意見】

- ホームページに情報が載っていることを知らない人が多い。村民便りに載せるなど、関心の無い人にも目につくような工夫をしてほしい。
- 工事の予定や外来種対策に関する情報などを村民便りに入れたらよいのではないか。子供から大人までわかるような方法で広報すべきではないか。バラバラに配布されると見ない。

今回の取りまとめ

- 行政機関では様々な広報がされているため、その配布の時期を合わせることを各機関と検討することとした。

7 公共事業における環境配慮指針について

【主な意見】

- 東京都には公共事業の環境配慮指針があるが、村はどうなっているのか。
- 東京都の環境配慮指針の公開方法は改めるべきである。
- 工事の担当者の知識によって環境配慮の質にむらがある。見直しを行う際には検討してほしい。

今回の取りまとめ

- 公共事業における環境配慮指針は現在東京都が見直しを行っており、小笠原村もその指針を準用する予定であることを報告した。
- 公共事業における環境配慮指針の公開の方法については検討することとした。

8 村民のモラル（駐車場の問題）について

【主な意見】

- 東町の都道の駐車場にはいつも同じ車が止まっている。通学路にも車が路上駐車されているし、西町の空き地にも車がいっぱい止まっているので、指導してほしい。
- 買い物に行っても車があふれていて危ない。事故が起きないように安全なまちづくりをしてほしい。

今回の取りまとめ

- 課題出しで終了。

9 東北大震災の復興・防災予算について

【主な意見】

- 東北大震災の復興予算が小笠原で使われているということをニュースで知った。どういう仕組みで小笠原にそのような予算が割り振られたのか。メディアを通じて知ると正しい情報が伝わってこない。正しい情報を伝えてほしい。
- 被災地では予算が足りないために、事業を断念することがあった。小笠原村は復興予算を断るべきだったのではないか。

今回の取りまとめ

- マスコミが復興予算という名称で報道することで誤解を招きやすくなっているが、正式名称は「復興・防災予算」であり、父島の浄水場建設は老朽化対策と共に災害時に備えた高台移転も目的の一つであったため、建設の予算が復興・防災予算の特別枠として割り振られたことについて報告した。

10 村民意見交換会の進め方について

【主な意見】

- 今回の意見交換会のアウトプットは遺産センターの機能に結びつくことになると思うので、できるだけ公開して論議して行ってほしい。
- 行政の会議は批判の場でもあるが話し合いの場でもある。行政から島民に対する要望があってもよいのではないか。
- 今後の意見交換会の進め方に関する構想やスケジュールがあるのであれば、チラシなどで示すべきではないか。今後の進め方を理解したほうが意見は出しやすい。

今回の取りまとめ

- 今後の意見交換会の構想やスケジュールについては次回以降に示すこととした。

第2回村民意見交換会概要報告（母島）

母島の村民意見交換会も父島と同様に、第1回目の意見概要について報告した後、参加者の皆様と意見交換を行い、その場で説明できることについては情報共有させていただきながら取りまとめを行いました。

第2回母島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。

1. 島民への普及啓発について

【主な意見】

- 母島は地形が急なので、気軽に遊びに行ける場所がない。
- （指定ルート化により）東山遊歩道が一周できなくなった。
- 樹木園などの気軽に自然に親しめる場所が欲しい。
- 観光客向けではなく、島民も楽しめるような場所が欲しい。
- 自然の知識がある人が村民向けに案内して欲しい。
- 子供が内地に行ったときに、自分の島の自然について説明できるようにしたい。
- 講演会の記録を蓄積するデータベースがない。配布資料などを残したい。
- 講演会をビデオ録画して、テレビで見られるようにしてほしい。
- 村民が普段いけない山の紹介映像や都レンジャーの活動の映像も見たい。
- 動植物は、本物や標本を見ると興味がわく。観光協会で展示してほしい。

今回の取りまとめ

- 新夕日ヶ丘などの対策が進んでいる場所の島民向けの企画や、科学委員会の委員が来島した際に、講演会も含めた村民向けのツアーを検討することとした。
- 講演会のビデオの公開については、発表者に確認し、検討することとした。
- テレビ放送については、実施可能かどうか確認することとした。

2. 看板について

【主な意見】

- 木の手作りの看板が母島らしくて良かったのに、最近はしっかりとした看板になってしまって残念だ。
- 父島と母島の看板を同じにする必要はない。看板についても村民を含めて話し合う場があればいい。
- 小富士の地面に埋設されている環境省の看板は小さくて目立たないので良い。
- シャワー室の前の方向柱は雰囲気が良いが劣化してきている。雰囲気を残したまま新しくしてほしい。
- 看板を木工が得意な母島の人に作ってもらってはどうか。作った人に愛着を持ってもらえるのではないか。
- 看板はアカギを使えばいい。

今回の取りまとめ

- 行政機関より以下の報告を行った。
 - ・色々な形の看板等が乱立していたので、世界遺産にふさわしい統一感が得られるように共通の基準を作成した。
 - ・公共サインの基準は定めたが、すべて基準どおりなくてもよい。

3. 外来樹木の駆除について

森林生態系保全センターより、前回の意見交換会の意見を受けて、乳房ダムの集水域上流部の国有林においては、当面は薬剤を使用した駆除を行わないことを報告した。

【主な意見】

- 乳房ダムの集水域はアガギが一番繁茂している場所である。どう対策していくのか検討が必要である。国有地と民有地が混在しているという課題もある。
- 道路沿いに丸太がたくさん置いているのは見た目が悪い。

今回の取りまとめ

○丸太を搬出すると、周辺に生息する陸産貝類等に悪影響を及ぼしてしまうことや、搬出すると産業廃棄物となり、内地に搬出することになることを報告した。

4. シロアリについて

【主な意見】

- シロアリの現状に関する情報が入ってこないのが不安だ。
- シロアリの根絶が不可能なことは世界的に分かっている。集落の防虫処理を進めるべきである。
- シロアリが母島に侵入したことを知らない人もいるので、しっかりと周知してほしい。

今回の取りまとめ

○昨年からは国交省が主体となって、行政間のシロアリ対策を検討する会議が開催されていること、母島の北側の山域で対策を実施しており、年度内に説明会が開催されることを報告した。

5. 観光対応について

【主な意見】

- 母島の日帰りツアーはやめてほしい。父島で弁当を買って、母島でゴミだけ置いていく人がいる。
- 父島に3連泊しか受け入れない宿があるので、母島に観光客が来ない。父島の宿を指導してほしい。
- 年末、宿の空があったのにおがさわら丸船内で「母島の宿に空きが無い」という放送が流れた。
- 母島に行くのを躊躇するような放送ではなく、気軽に来られるような放送に変えてほしい。以前は「観光協会にお問い合わせ下さい」としていた。
- 母島の宿の状況を放送するのであれば、電話予約できるように、東京湾を出る時や、竹芝の船客待合所で知らせるべきである。

今回の取りまとめ

○行政機関より以下の報告を行った。

- ・日帰りツアーの問題は様々な要因がある。母島への滞在が増えるように観光局等のPRも心がけている。
- ・平成22年は仕事関係の宿泊者数が多かったため、観光客だけで比較すれば、平成23年は宿泊者数が増えた。
- ・船内放送の件は母島観光協会から小笠原海運に、事実確認を行う。

6. ネズミ駆除について

【主な意見】

- 属島のネズミを駆除するお金があれば、母島のネズミを駆除してほしい。
- ネコが減ってからネズミが増えた。
- ネズミがパッションフルーツを食べるようになった。トマトもネットを食い破って侵入するようになった。東京都や小笠原村も対策を検討して欲しい。
- ノスリが殺鼠剤を食べたネズミを食べても問題ないのか。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・属島のネズミ駆除は環境省が実施しているが、環境省の事業は自然保護が第一になってしまう。属島で対策をする理由は希少な生物が生息していて、保護の優先度が高いからである。多額の費用がかかる理由は、確実に根絶するためである。ネズミは根絶しないとすぐに個体数が回復してしまう。集落で実施しない理由は、母島全島からの根絶や、一部の区域で低密度化する技術が無いからである。低密度化の技術については検討中である。
- ・ネズミ駆除に使用する薬剤は非常に毒性の低い薬剤であり、特に鳥類に対しては毒性の低い薬剤なので、ノスリに対する影響はないと考えられる。
- ・小笠原村では農協に殺鼠剤の購入補助を行っている。(結果として農業者の購入価格が安くなる。)

7. 意見交換会について

【主な意見】

- 意見交換会を知らない人が多い。
- 青年会や婦人会など、母島には集まりがたくさんあるので、それを通じて声かけをしてはどうか。
- 今までに村民の意見を聞く会はなかったので良い取り組みだと思う。
- 意見の概要ではなく、生の声の記録を配布してほしい。
- 次回はゴールデンウィーク明けから6月の運動会までに開催すれば集まりやすいのではないか。
- もっとテーマを絞ったほうが意見を出しやすい。
- 母島には団体がたくさんある。各団体の代表者が集まって話し合う会があればいいのではないか。各団体の代表者が団体のメンバーに結果を周知することもできる。
- 各団体の代表者に、団体内の意見をまとめて持ち寄ってもらえばいいのではないか。

今回の取りまとめ

○今後の意見交換会の進め方についてはいただいた意見を参考に検討することとした。